

---

# **[有りがちな転生モノ] ねぎてん！**

metro\_polytank

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「有りがちな転生モノ」 ねぎてん！

### 【Nコード】

N8068Y

### 【作者名】

metro | polytank

### 【あらすじ】

チート転生物。ありがちな”他作品キャラの能力ちようだい”はないものの、莫大な魔力を振るえるオリ主はどこに行き着くのか。ニコポ 撫でポ ハーレムは無し。初めにゼロ魔。メインはネギま！

今度こそ続けたい…

原作とまではいかないがフリーのRTS「EmpireTohu」は面白かった。色、形、攻撃は違うけど敵の四角い軍勢がわらわら

するイメージはそこから来ている。

## プロローグ

今はまだ知らない。僕はいずれ幾多の世界をめぐり「最古の聖者」

「止まらない者」と呼ばれることを…

僕は白い空間に立っている…

女神：

「おめでとうございます。貴方には『神の暇つぶしの駒』としてある世界に転生してもらいます。非常に危険な世界であることと、報酬の先払いとして『不老の肉体』を与えます。そもそも転生者機構とは…」

…えっ？

女神：

「…ということですから、貴方に三つの饒別を与えましょう。まずこの本は『術式編纂機』といい、貴方の心臓足りうるものです。次に『無名の杖』：今はまだ只の棒ですがいずれ貴方の宝になるものです。最後に『女神特製ペンダント』を授けましょう。これは個人的なサービスです。『永遠に増え続ける力』を約束します。…ではいつてらっしゃい。」

足元が消え、こうして僕は落とされた。

以下アイテム説明

術式編纂機：立派な本。オリジナルで魔法を作るもの。見た魔法やイメージを記録し最適化・改良し、同時に詠唱も大幅に短縮可能。もし別の世界であれば『ロストギア相当の高性能なデバイス』。魔術的意味をもった陣や文様も作成可能であり、これを用いれば腕輪等に変形可能。

無名の杖：現在は『並みの魔法発動体』。長さは1メートルオーバーの金属製。割と軽い。

ペンダント：ペリドット。布製の紐の長さは調節可能。

#### 主人公説明

名前：カラバ サリーナス

性別：服装次第では判別不能な 一応男。

印象：目立つのは髪。長髪で薄いまだら模様。模様、色合いは時折変わる。

猫のようにいたずらっぽい目。ひよろ長な体型。あと眼鏡。

初めはゼロ魔（1週目）をはさみ、ネギま（大昔）に移る予定！

## ゼロ魔編 1 - 1

貴族と平民という構造から…多分ここはゼロ魔の世界かな。幼児の状態ですの上で倒れていた僕はとても上品な女性に拾われました。幸い所持品も回収しておいてくれたようで何よりです。

彼女は貴族の夫婦で、なかなか子供が生まれず神に子宝を願っていたらしい。

名前を頂きました。

「カラバ・セレスタン・ル・サリーナス・ド・シャンリット」  
これが僕の名前です。

- - - - -

父 エリック

「カラバよ。少しばかり早い気もするが魔法を教えたいと思う。」

母 クロエ

「早すぎるのではないですか？」

待ちに待ったこの一言。カラバ推定4歳。

「父上。習いたいです。」

「そう言うと思っていたわ。魔法の教師も既に探しておいた。存分に学びなさい。早速明日からだ。」

「はたしてわが子に才能はあるのか。」

「きつとありますわ。血はつながっていなくとも私たちの子供ですもの。」

「その杖は大き過ぎないか？」

「これから鍛えますから、近いうちに使いこなせるようになります。」

」

- - - - -

翌日朝。

「初めましてお坊ちやま。アンサリヴァンとお呼び下され。」

豊かな白髪をもつ老人。彼が僕の先生となる。

「杖との契約はできてますかな？」

「多分。これです。」

金属製の長杖を見せる。毎日のように杖を握っていたので、杖とのリンクは無意識のうちにできていた。

「ふむ。出来てますのう。では、火の適正から見ていきますぞ。

火をイメージして下され。杖に火を灯すのじゃ。」

杖を正面に構え…「火よ。」

杖の先から火焰が迸る！！慌てて杖を落とす。

先生はしばし沈黙し、

「次は水じゃ。なるべく大きな水球をイメージするのじゃ。」

「凝縮せよ！」

杖の先端にサッカーボール並みの水球が生成される。集中が途切れ水球は破裂する。

「今度は風じゃ。風をイメージするんじゃ。」

「吹き飛ばせ！」

突風が吹き荒れ砂が目に入る。痛い。

「荒っぽいのう。最後に土じゃ。足元に『鍊金』と唱えるのじゃ。」

「錬金！」

突如半径5マイルが金色に！先生は判別魔法で調べる…

「初めてにしてはすごい。黄銅じゃわい。」

「そろそろ昼じゃな。続きは明日からじゃ。」

- - - - -

結果。

水は少々見劣りするものの、全体的に高い適正を持っていた。  
父と母はとても喜んでくれたのだった。

- - - - -

さらに翌日。

「今日はコモンスペルじゃ。」

ライトは小さな太陽もかくやという超出力。ブレイドは長杖を槍の  
持ち方で持ち手の先からが”当たり判定”で先端から30サント程  
の白刃だった。

疲れたので休憩をはさむ。

出力を練りに練った渾身のマジックアローはこれまた白色で、20  
0マイル先の岩に着弾し、岩は粉々に。

「ふむ。魔力容量がすごい。ブレイドが白いのは全属性に適性  
が有るからかの。問題は制御じゃな。」

こうして2日目は終了した。



ゼロ魔編 1 - 2 (前書き)

超！展！開！

## ゼロ魔編 1 - 2

魔法を習い始めて先生から多くを学びとった。それからというもの1人で修業に明け暮れた。

この世界のメイジたちの言う魔法とは結果のイメージと自身の”強い感情”から作りだすものらしい。この強い感情を精神力という。魔法を放って疲れるのは集中時に力みすぎただけなのだろう。しまいは気絶するというメカニズム。よく分からないが、使えるのだから良いだろう。とりあえずどうでもいい話。

一方、周囲の精霊を使役するのが先住魔法といわれ、メイジには蛇蝎のごとく嫌われる。主な愛好者がエルフだからか？先住魔法には予め契約する必要があるが、制約も多い。この工程を省略できないか？

双方のいいとこどりで、周囲の精霊を強制的に使役し、人の身でスクエアがはだして逃げ出す（といいね）大火力の術を行使する。これを精霊魔法と呼ぶ。自身の魔法はこれに当たる。

魔法が出回って6千年と聞くと、進歩は無かったのか。

僕の術式編纂機は魔術行使にあたり、詠唱とイメージの大幅な肩代わりをしてくれる。最初はフルで詠唱が必要だけでも、しばらくすると無詠唱なしワンフレーズでOK。新しい術の提案もできる。黒い本の形をしていて開く必要はない。最近触れるごとに皮膚に張り付いてその内とれなくなりそうで怖い。

ペンダントの魔力増加はなかなかうれしい。毎日大幅に増えている。

キンクリー！！

-----

誰もが近寄らない、薄暗い森。

…ところで父母は止めたりしないのだろうか？僕には何にも言わないのだが。僕もう10歳。

努力？友情？勝利？…そんなものは無かったぜ！努力はさておき、お忍びで屋敷を抜け出し街で年下の少女たちに片っ端から声をかけたがことごとく避けられた。その代わり街のおっちゃん達に大人気。まだ戦闘はないので勝ちもくそもないわ。

正面に杖を構える。

「アロー、2048爆発連弾！」

赤く光る矢が着弾点を燃やし焦がす。緑の矢は突風に散逸した。石と氷の矢は棒状のまま刺さり破裂する。比較的太い木が初弾にギリギリ持ちこたえ、次弾で弾け飛ぶ！右手に長杖、左手に本。

「ロッドへの魔力急速充填…。」

自前の魔力はまだそれ程多くない。

周囲の魔力…自然の魔力と先ほどばら撒いた自分の魔力をロッドに注ぎ込む。ロッドの先が白く輝く。

「アルテミス1e4」

草木が枯れ、気持ち1万発分溜まったあたりで打ち出した。発生した熱量で局所的に空気が爆発的に膨張し、雷鳴が発生。盛大に土煙りを巻き上げ、青白い光線が樹木の上を掠め、晴れ渡る空に溶けていった。

そろそろ昼。屋敷に戻ろう。

チートだけあって、うん。なかなかの超出力！

- - - - -

今日は曇りで雨が降りそう。自室で作業を行う。

？マジックチャージャー（魔石）作成

庭で適当な石を拾う。直径にして5 سانت程の灰色の石。

魔力を込める。魔術行使で杖に注ぎ込む感じ。少し込めただけで直ぐに砕けた…。窓から捨てる。

材料が悪かった。つぎは錬金で金属や宝石で試す。ん？金の錬金出来たのかって？まあチートですから。

アルミや鉄は使えなかった。金銀銅は意外と良かった…幻想金属はどこかにないものか。

宝石の種類はよく分らない。とりあえず低温型石英（透明）とダイヤモンド（透明）。どちらも大量に魔力をため込むことが出来た。だが取り出し方が判らない。とりあえず作りやすかった水晶球を「魔石1型」と命名。

？幻想金属への追及

金属と宝石を比較すると蓄積量では格段に宝石の方が上。また金属は瞬間でより多くの魔力を閉じ込められるものの、直ぐに散逸することが分かった。

以前杖に魔力を大量に注ぎ込んだ。これにヒントは無いか？

ディテクトマジックで杖自体を調べる。親指の伸ばした爪の先を臨時の杖と見なし、何とか使えた。1メートルオーバーのシンプルな口ツド。

・「杖先」…表面は未知の白銀色の素材で微量ながら魔力を放出している。内部は銀。

・「持ち手」…内部が銅。表面は銀。いつも握る部分

・「杖の尻」…チタン。一部銅。

恐らく、魔力を通すことで「チタン - - < 銅 - - < 銀 -  
- < ? ? ? ? ?」と元素の直接転換が起きたと推測。遠からず杖の大部分は? ? ? ? ?に転換されるだろう。? ? ? ? ?を錬金で生成することはできず、これをミスリルと命名。ならば銀塊に魔力を通し続けることでミスリルを作れるのではないか？

それと杖を改造したい。

- - - - -

そんなある日の事

カラバが森から屋敷に帰る途中、空が赤く燃えていた。

屋敷や街の方角から黒煙が昇っている。

街では異形のゴーレムの群れに襲撃されていた。

ふと、後ろに何かが居る！

『赤豆腐 が あらわれた！』

赤く四角いゴーレムは口から液体をぶちまけ、体にかかる。ネット付く液体は独特な刺激臭を放っている。

ガソリン臭…まさか!!

『赤豆腐 は ナパーム をぶちまけた!』

『カラバ は もえやすくなった!』

広がった液溜の端に火が付いた。液面を伝って自身に燃え移る！

『赤豆腐は ひだね を しゃしゅつした！』

『カラバは ほのおにつつまれた！』

もんどり打ちながら水魔法を紡ぐ。

『カラバは もんどりうっている！』

『赤豆腐は ひだね を しゃしゅつした！ しかし こうかは  
なかった！』

『カラバの しょうかまほう しかし こうかはなかった！』  
『赤豆腐は なかまを よんでいる！』

ナパームは油性だから水では落とせない。冷やしてもナパームに添付されたガソリンの発火点は - 4 0 。なかなか消えない！。体中が痛い！

『カラバは どしゃ を しょうかんした！』

『カラバの ほのおがきえた！』

『カラバの かいふくまほう』

土砂に隠れ、水魔法で少し回復したあたりで、見失ったのか赤い四角は去って行った。

屋敷に急ぐ。屋敷は既に崩れていた。

屋敷の皆は逃げているだろうか…

すでに日は落ちている。炎の赤が痛々しい。

物陰からぞろぞろと何かが出てくる。白いゴーレムに包囲された。焼け跡から黒くて大きなゴーレムが現れた！一部が返り血で赤く染まっている。

『白豆腐Aがあらわれた!』  
『白豆腐Bがあらわれた!』  
『白豆腐Cがあらわれた!』  
『重装豆腐があらわれた!』

「アロー!」

『白豆腐Aはたいはした!』  
『白豆腐Dがあらわれた!』  
『白豆腐Bの2連装9ミリサブマシンガンがひをふいた!』  
『白豆腐Cの2連装9ミリサブマシンガンがひをふいた!』  
『重装豆腐のだいしゅつりよくプラズマブラスト!』

回復魔法が追いつかない。敵は散開して居るので一体を破壊する間に他のが攻撃してくる!

白ゴーレムの防御は紙なのだが数が多いしその武器はおかしいだろう!

『カラバのアルテミス!』

『重装豆腐は1のダメージ!』

『重装豆腐のだいしゅつりよくプラズマブラストがはそんした!』

『重装豆腐はてつたいした!』

『白豆腐Eがあらわれた!』

『白豆腐Bの2連装9……』

∴

∴

グチャグチャと挟まれ、プラズマに焼かれる。

もう駄目だ…

『カラバに しんこなエラー が はっせいした』  
『カラバ一行 は ぜんめつした!』

…我が生涯一片の悔いなし!!

<女神『コンティニューする?』

Yes! Yes! Yes!...

|||||NOTE1|||||

### 豆腐の兵隊

振興の武装勢力。シャンリット郊外に彼らは流れてきた。目的は新装備の実験。リーダーは物量系の転生者。兵力の総数はまだ少ないのでゲリラ戦によるヒット&アウェイ戦法と弱者への蹂躪が特徴。白豆腐の装甲は相変わらずペライ。重装豆腐の装甲は「全面削り出しオリハルコン」に「抗魔スペル」「固定化」の重ねかけ。間違っても序盤に出現する敵ではない(笑)

近隣のガリア騎士がやって来た頃には既に撤退した後だった。

|||||NOTE2|||||

### 「汎用」マジックアロー/マジックミサイルの改造

編纂機を用いて詠唱を極力短縮したい。

魔力や精霊を掻き集め、矢に成型し、射出する。

-<M|arrow:「魔法属性」アロー」消費する魔力/追加属性1/追加属性2,...」;

魔法属性:「火/風/水/氷/土」追加「無/光/闇/雷」

消費する魔力:「int」

追加属性:「追尾/連弾/集束」追加「爆発/麻痺/浸食/ガード  
無視/石化/貫通/非殺傷/etc」

魔法属性はこの世界では4属性のみとされる。世界の制約上追加



の属性は習得不可。また水と氷は同一視されている。光はライトがあるものの、光属性も存在しない。指定なしの場合、基本として自動的に行使用者が得意とされる単一属性が指定される。多属性が混合する場合もあり、この場合相殺する属性をしつかり分離する必要がある。

消費する精神力（魔力）は未指定ならば1発分。

追加属性は複数指定可能。未指定で消費魔力分の同時攻撃。

超集束型マジックアロー/ミサイル 「アルテミス」

- <Artemis」"アルテミス" 消費する魔力」；

規格外な出力の魔法矢。追尾性は弱いものの、巨大な停止・低速目標への使い勝手は非常によろしい。

魔力消費のオーダーは最低4。ちなみに「1e4」とは $1 \times 10^4$ のこと。

**ゼロ魔編 1 - 2 (後書き)**

敵さんはもう片方のオリキャラ。向こうの続きはどうするか…

次回は敵サイドとインターバル！女神様に迫ります（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8068y/>

---

[有りがちな転生モノ] ねぎてん！

2011年11月24日20時57分発行